令和６年度 日本大学文理学部個人研究費　研究実績報告書

所属・資格　　英文学科・助手

申請者氏名　　天海　希菜

研　究　課　題		黒人文学におけるジョン・ミルトンの影響
報告の概要	研究目的および研究概要	昨年度は、トニ・モリスンの『スーラ』や『パラダイス』を用いて、黒人社会における"paradise"や救済、男女・夫婦の形を、主にミルトンの『楽園の喪失』と比較した。その結果、モリスンの描く黒人コミュニティとローカリズムと、『自由共和国建設論』で論じられているミルトンの共和国設立に対する考察を比較する必要があることが分かった。そこで本研究では、すでに指摘されている『自由共和国建設論』初版と第二版の違いを研究し、その後コミュニティやローカリズム、ドミニオンをキーワードにモリスン作品とミルトンの共和国建設について比較・考察する。
	研究の結果	モリスンによる『ビラブド』の主人公の娘デンヴァーのアイデンティティや成長について、多義的な“Home”という空間の関係性から考察した。デンヴァーに備わっている黒人と白人の二つのルーツは、デンヴァーを通して、新しいアメリカ人の象徴となっている。一方で、作中の記憶や家族と住む家は、デンヴァーを縛り付け、彼女の成長を阻害していたことを明らかにした。 また、イタリア語恋愛詩「カンツォーネ」および「ソネット６」では、恋愛における試練や忍耐、詩人自身の美徳について謳われており、ミルトンのキリスト教の信仰心に通ずる英雄的素質が描かれていることを検証した。 さらに、ミルトンによる 1644 年版と 1673 年版の『教育論』の原典テキストを比較したところ、400 を超える変更があった。ミルトンが緻密に確認し、改訂版を出版していたことを確認した。
	研究の考察・反省	モリスンとミルトンについて個々で研究を進めたが、研究目的にあるような比較作業には至らなかった。今後は個々での研究を継続しながら、二人の作家による作品を対照し、比較していく。 イタリア語の恋愛詩においても、ミルトンのキリスト教的英雄観が根底に根付いており、ミルトンのヒロイズムとフェミニズムの関連性を明らかにするためにも、女性を対象としたソネットの考察を続けていく。なお『教育論』については、今年度は対照作業に留まったが、今後は内容の検証をする必要がある。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		※この欄は，本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 研究発表： 「*Beloved* におけるデンヴァーの Home」　日本大学英文学会アメリカ文学シンポジウム 2024 年 6 月 8 日　於日本大学文理学部 研究成果物： 論文（共著） 「ミルトンにおける「キリストに倣いて」の概念と発展：『詩集』を中心にーその２」『日本大学工学部紀要』第 66 巻第 2 号（2025 年 3 月）pp.1-27